

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200171		
法人名	株式会社スタッフ・アクタガワ		
事業所名	スタッフ・アクタガワ ケアセンター八幡グループホーム		
所在地	静岡県静岡市駿河区有東2-12-10		
自己評価作成日	平成24年10月13日	評価結果市町村受理日	平成25年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2012_022_kami=true&jiyosyoCd=2294200171-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成24年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中、入居者も職員も、訪問くださる方々皆が笑顔で過ごせますように心掛けています。
外部講師をお招きしてのカルチャー教室実施や、通所との合同イベントの実施もしています。
介護を通じ、地域に貢献できますよう努めると共に、地域行事にも積極参加し地域の方々が気軽に立ち寄ってくださいますようお願いしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本部の内部規定を満たした介護福祉士で構成される「技能士会」があり、より専門的な取り組みが確立されている事業所です。また、併設のデイサービスでは、切り絵、太極拳、体操教室、ちぎり絵、書道、華道、音楽療法など盛んにカルチャー教室が行われていて、利用者は自ら選んで参加できています。自治会からは蕎麦打ち教室の依頼、地区敬老会ではバルーンアートの披露を行うなど、地域イベントから引張りだこの管理者がおり、地域との草の根交流が進んでいます。一方、日頃のケアサービスにおいては、トイレの便座に座るとすぐに大きめのタオルを膝に掛け、尊厳にも配慮した取り組みに尽力しています。「ヒヤリハットの記録」を1日1回と奨励し、朝礼で周知して改善に繋げ、法人内で最高賞を得ていることから、努力を続ける力の強さが窺えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく笑顔の絶えない、もう一つの我が家」を理念にお客様の尊厳を第一に考え、家庭的な環境の下、日常生活の支援を行っている。	細部にわたる掘り下げた話し合いの中で職員総意のもと作られた「明るく笑顔の絶えないもうひとつの我が家」は、その浸透度合いを確かめる取組みがあります。成長著しい法人のため、異動も多い中、新任職員の意識付けの源ともなっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人々と気軽に挨拶を交わし、いつでも立ち寄れる環境を心掛けている。地域行事のイベントお手伝いや、地域の方をお招きしての施設行事を開催している。	自治会主催の夏祭り「ハルーンアード」で出店し人気を博しました。また、「お日待ち」(地域の収穫祭)で展示した利用者作品は本人たちの励みになっています。公民館での介護教室は毎年の恒例となっていて、近所からは差し入れもあり、地域の一員としての地位が確立されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会で、認知症と予防の教室を担当させていただいたことも恒例となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況やイベントの報告をし、地域との交流に役立つ情報の提供を受け、積極的に交流を図っている。	運営推進会議は年6回実施しています。地域包括、自治会・町内会長、家族代表、時には利用者や協力医が参加し、また4名も参加する民生委員の間では情報交換の場にもなっています。災害時の自家発電による照明位置の工夫などの意見があがり、運営に反映されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	隣接している地域包括支援センターに、事業所の実情や、取り組みを報告・相談したり、地域の介護ニーズを伺ったりと連携が図れるよう努めている。	運営推進会議には毎回、行政サイドとして地域包括が参加し、議事録はその都度、地域包括と介護保険課に届けていて、行政と協力関係を築いていきたいという積極的な姿勢が見られます。介護相談員からは利用者の意向や想いも届けられ、運営に役だっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の宣言をし、身体拘束をしないケアについて研修を行っている。	身体拘束ゼロ宣言をしていて、日中は開錠しています。本部研修のほか、年に1回はテーマを決めチーム内研修を行い、また外部研修にも参加して研鑽に励んでいます。特にスピーチロックは、禁句集やヒヤリハットを活かした取組みがあり、束縛しないケアの実践に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を行うと共に、自己振り返りの機会も設けている。お客様やご家族様の状況に応じ、通いや泊まりについての提案もさせていただいている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	隣接している地域包括支援センターに、相談し、連携が図れるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとっていただき、内容について説明・確認をさせていただきよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を交え、意見交換を行うと共に、定期的なカンファレンスを通じて、対応の周知を図っている。	家族会を年2回開催し、職員実働に関する苦情や意見などの吸上げを図っています。本部からの家族アンケートも実施しています。近年は回収率も向上し、集計後は法人からは正指示の形で事業所にフィードバックされていて、改善に繋げる取組みをしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のチーム会議等で、職員の意見や提案を聞く機会を設け、担当者の会議にて議題・課題としてあげることができる仕組みがある。	月例会議ではフリースタッフで意見を表出させ、また年2回個人面談もあり、また職員同士のサンクスカードでチームワークを養っています。会議が細分化しすぎて風通しが悪くなったとの職員意見からセンター会議を復活させた例もあり、意見が反映されやすい事業所です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年各自の目標管理シートを作成し、前期・後期に分けた評価を行い目標に向かっていく。労働時間においては、フレックスタイム制度を有効に活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ステップアップ、スキルアップ(個別)、キャリアパス、マナー等の研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の受講や、事業所連絡会の出席をし、他事業所との交流や、意見の交換を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り寄り添いながらの対話を心掛けている。職員間で情報共有ができるようカンファレンスを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	情報交換に努め、望ましい対応についてご意見を伺っている。 入居前にお試し期間(1週間)を設ける事もでき、ご意見・ご希望をお伺いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談、プラン提案を経、ご意見を伺いサービスの提供につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対話・会話を重視し、ご意見を伺い日常生活をレクリエーションとして捉えた働きかけに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への報告や相談を大切にしている。 情報の交換により、望ましい対応の思索に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域交流を積極的に行い、行事に出向いたり、地域の方々に施設にお招きしたりし、馴染みの環境が離れてしまわぬよう支援している。	手紙や年賀状の交換をしたり、全ての職員・利用者でショッピングセンターにドライブし買い物を楽しんだり、フットワークの良い外出が叶っています。事業所のふれあい祭りや餅つきなどの行事が功奏して、地区の人たちや友人知人が訪問しやすい環境が整っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	参加型レクリエーションの実施や、移動時の協力を働き掛け、関わり合える支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設行事のご案内等、声掛けを心掛け疎遠になってしまわぬよう意識している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴などの情報収集をし、対話による把握も含めて、個別対応の検討に活かしている。	職員にはヒヤリハットを毎日1点以上挙げるよう推奨していて、問題抽出が日々できる工夫があり、観察力向上に繋がっています。また、介護相談員の協力も大きく、一緒に煙草を吸いながらリラックスした中で意向が出やすくなり行動に結びついたこともあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の語らいや、ご家族との会話の中から情報の収集をし、ケアへと結び付けられるよう、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	働きかけを重視し、その方がその気になれるお誘いの仕方についてを職員間で大切にしている。 無理のない動作と行動への付き添いや見守り、介助に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チーム会議、カンファレンス等の場において、職員による観察や、ご家族からの情報を集め、対応やプランに反映できるよう努めている。	毎月職員がモニタリングし、カンファレンスシートに記入後、担当が集約して会議で発表し、ケアマネージャーが介護計画の作成、見直しを行っています。家族には来所時に介護計画を説明し、遠方の家族には直接電話で説明し了解を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別介護経過記録を用い情報の共有に活用している。 定期的・変化時のカンファレンスを通し、計画見直しの検討をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じた対応ができるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域代表、民生委員を、運営推進会議や施設相談協力委員会にお招きし、住み慣れた地域の中で、安心して暮らしていける支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	GH主治医とは24時間連携の体制が整い、定期往診の他にも、随時相談や往診対応を受けられる。	ほぼ全員が協働医に変更しています。以前のかかりつけ医の場合は家族が受診支援しています。7月から医療連携で24時間対応が出来るようになり、以来すでに3例が、入院措置が必要な点滴が施設内で可能になり、また週1回の訪問看護もあり、大きな安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪看との医療連携体制が整っており健康管理や、看護チームの随時対応が受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療時や、退院後の処置・対応について、主治医の協力が得られる体制が整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対応に関し、できる事とできない事について説明を行っている。状態の変化があった際は、その後の望ましい対応について話し合っている。	本部方針もあり、ターミナルケアの研修も受け、また24時間医療連携も可能となり、終末期への取り組みが進んでいます。家族の希望で最終末期まで事業所で介護し、最後に医療機関に搬送されて、平穏のうちに天に召された方もあるなどチーム支援が見られます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを基に対応研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを基に研修を行い、災害想定避難訓練・事業継続計画の訓練を行っている。	年2回、内1回は消防署の立ち合いのもと、避難訓練を実施しています。地域の防災訓練にも参加するほか、夜間想定訓練では、近隣の人たちに協力を仰ぐかたちで、実際に利用者・職員の階下搬送を行いました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を損なわない言葉かけや、対応ができるように研修項目に取り入れている。	全介助による機能低下を危惧し、自立を目指す支援の中で、人格の尊重に重きを置いたケアに繋がりたいとの思いが強くなります。毎月のチーム会議の中で接遇マナーや禁句集を使つての研修など、利用者の尊厳を守る取組みに励んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定のできる機会を持ち、時には選択式を用いて働き掛けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している	できる限り寄り添いながら対話をし、ご希望に添えられるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月毎に、訪問理美容を利用できる日を設定し、希望により対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も共に同じ食事を摂り、介助が必要な時には隣席でカバーしている。また、現有能力に応じて支度・片付けを共労している。	提携業者から届く食材の基本メニューにアレンジを加え職員が調理しています。利用者の能力に応じて、食材の盛り付けなどが出来るよう支援しています。「ペンギン食堂」と銘打った、利用者の前での料理は好評で、ひな祭りのちらし寿司など季節感を楽しめるよう工夫があります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事量を記録し、把握している。メニュー・食材管理の業者と打合わせ調整を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシ、スポンジブラシによるブラッシングや、洗浄液による口腔洗浄を実施している。口腔ケアは意識的に力を入れている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限り自立に向け支援している。排泄チェック表を活用し、声掛けや時間誘導による対応もしている。	こまめにトイレにいけるような声掛けをしていて、3名の利用者が、1～2年で布パンツに改善した例もあります。排泄チェック表でパット交換時期を判断したり、自立度の高い利用者には睡眠優先で対応しています。工夫でパット使用が減少し家族の経済負担軽減に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防も考慮の上、運動・活動への働きかけをしている。また、主治医と相談し、お薬による調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望・要望をお伺いした上、柔軟に対応できるよう努めている。	入浴は週3回午前中を原則としています。入浴剤は毎回、また柚子湯などの行事湯も楽しんでいます。機能低下に伴い併設事業所のリフト浴を利用することもでき、同性介助の希望にも応えています。入浴拒否者も、職員の声掛けで利用が叶ったという例もあります。	清潔度の高さは視認していますが、水虫などの皮膚感染予防についても、あらためて検討されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限り自宅での生活スタイルに沿った対応ができるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、表を用いて確認・管理をしている。お薬の情報も職員が把握できるようしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現有能力に応じ、役割が持てるよう働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事への参加も、地域の協力を得ながら、行っている。天候・気候やその日の体調を考慮の上、散歩へのお誘いをしている。	法人グループ内で各事業所ごとに行っている、ふれあい祭りには利用者と頻回に出かけ、交流が図られています。週1回公園散歩、月1～2回近隣ドライブなど、また月2回の登呂遺跡などへの計画外出、そして外食のとろろ芋料理等、希望に即応していることが観えます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望に応じて、自己管理と施設管理とに分けている。ご自身で管理されている方は、自己管理のお財布によっての買い物もされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じ、ご家族の承認を得、対応もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごせる空間作りを心掛けています。個人作品の展示や、写真の掲示もし、季節感をもてるよう努めている。	共用空間の壁は利用者作品のちぎり絵が大きな存在感を放っています。また、テーブルの上には沢山の色鉛筆が花束のように置かれ、何か書いてみたい衝動に駆られます。室温は利用者の体感温度に配慮し、掃除換気を毎日行い清潔な共用空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に、和室やソファを備え、自由に活用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものがあれば、持参していただくようにしている。	エアコン、ベッド、押し入れ、洗面台には大きめの鏡が備え付けてあり、部屋で歯磨きをする利用者もいます。カーテンは持ち込みで、好みの色合いを楽しんでいます。居室には家族の写真や作品が、また使い慣れた筆筒の持ち込み等があり居心地の良さが伝わってきます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室には目印があり、手摺を利用し自立した生活が送れる環境が整っている。		